

ほんの たね

なぜかサバイバルの物語が好きです。『ロビンソン・クルーソー』や『二年間の休暇（十五少年漂流記）』など、人間社会や大人の庇護なしに、自分の力で生き延びる物語のことです。私自身は全くアウトドア派ではなく、サバイバル能力も皆無で、もしそのような状況に置かれた場合、あっという間に死ぬだろうと予想しています。だからこそ憧れるのかもしれませんが。特に好きな部分は生活のディテール。住みかを整え、食料を手に入れ、身に付けるものも何もかも、自分の手で作り出さなければなりません。大変ですが、知恵を尽くして一から生活を組み立てる描写は、子どもだった私の独立心を刺激し、強く印象に残っています。今回は、生活描写が魅力的なサバイバル物語を2つご紹介します。

1) 『家なき娘』
『家なき子』を書いたエクトール・マロの、もう一つの代表作です。アニメ「ペリーヌ物語」の原作と言えばご存じの方もおられることでしょう。フランス人の父とインド人の母の間に生まれた少女ペリーヌが、孤児となってから父方の祖父に受け入れられるまでを描きます。大人の庇護をなくした子どもが19世紀の社会を生き抜かなければならないサバイバルの物語です。ペリーヌは遍歴の末、祖父の経営する工場で素性を隠して働き始めます。使われていない狩猟小屋を住みかとし、草で靴を編み、水鳥の卵を集める暮らしは、なんだかとても憧れるものでした。

2) 『死のかげの谷間』
主人公のアンは16歳。アメリカの谷間の田舎の村に住んでいます。ある日核戦争が起きて、村の外は壊滅状態だと知らされます。村は地形や気象的条件が重なって放射能汚染を免れていたのです。大人たちは生存者を探しに行ったまま戻ってきません。アンはひとり、村に残された食料や資材を使って暮らしていましたが、ある日、奇妙な防護服を着た男が現れて…。

いわゆるポスト・アポカリプス、文明が終末を迎えた後の物語に分類される作品です。漂流記では最後に助けが来ますが、この場合助けは来ません。アンと男の間で、息詰まる駆け引きが繰り広げられるサスペンスです。

サバイバル物語の魅力は、庇護されることと引き換えの、独立と自由ではないでしょうか。それは、大人になってから読んで、不思議と惹きつけられるものがあります。

(S) **おすすめサバイバルの本**

- 1) 『家なき娘 上・下』
エクトール・マロ／作 二宮フサ／訳
偕成社 (JB マ) ※駒込図書館他所蔵
- 2) 『死のかげの谷間』
ロバート・C・オブライエン／著 越智道雄／訳
評論社 (X F3) ※池袋図書館所蔵

10月の行事

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
新刊お話し会	休館					
8	9	10	11	12	13	14
新刊お話し会						
15	16	17	18	19	20	21
新刊お話し会		赤ちゃんお話し会				
22	23	24	25	26	27	28
新刊お話し会					休館	
29	30	31	サンシャインシティにて読み聞かせ ※14:00～ ※15:00～			
新刊						

おそとでわくわくおはなし会
※すがもがーでんてします※

<日曜> 新刊本を出します。
新刊コーナーにご注目！
毎週11時から、幼児から
小学生低学年向けのお話し会があります。

<火曜> 第3火曜日11時から、赤ちゃん向けお話し会があります。

編集後記

長かった夏もようやく出口が見えてきた感じでしょうか？
毎年、ここから年末までは、飛ぶように？過ぎていく感じがしますが、やり残しが無いよう一日一日を過ごしていけたらと思います。

「読書の秋」皆さまのご来館、心からお待ちしております。

(M)

すがもらいぶらり

2023年10月5日 栄鴨図書館発行

いよいよ秋めいて参りました。読書の秋、芸術の秋、食欲の秋…みなさまどのような秋をお過ごしでしょうか。

栄鴨図書館ではこの秋、人権問題に焦点を当てた催し物を実施いたします。

まず、一般向けとして、子どもの悩みや問題も法律で守られていることをSDGsの目標にも触れながら学べる内容の展示を行います。

児童向けには「こども六法」の著者・山崎聡一郎さんをお招きし、「法律ってなんのため？」という催し物を実施します。関連図書も児童コーナーで紹介予定です。

子どもも大人も「尊い存在だ」というメッセージを込めて企画しております。是非ご注目ください。

(館長)

一般向け

考えてみようSDGs
～子どもも大変！大人も知っておきたい子どもと法律～

展示場所：1階特設コーナー
展示期間：10月28日(土)～11月23日(木)



児童向け

「こども六法」の山崎聡一郎さんとまなぶ法律ってなんのため？
日時：令和5年11月5日(日)
14時～15時 ※要予約
詳細はお問い合わせください。



じぞうくん
令和5年9月6日、「としま子どもの権利相談室」がオープンしました。まわりの人に言えない、自分ではどうすればいいかわからない、誰かに聞いて欲しい…そんな時は相談してね。

イラスト作 S



「おいしいもの」を話のタネに進めてきたこちらのコーナー、今回が最終回になります。「食」への渾身の愛をこめて!

最終回にこんな話をするのも変なのですが、このコーナーは、自称食いしん坊司書の私が、一緒に働く仲間インタビューをして記事を書く形を基本にしてみました。

※中には、自分で書いてくださった方もいます。某「徹子の部屋」のように、うまくインタビューはできませんでしたが、職務中には知り得ない横顔を知ることができることもあり、貴重で楽しい経験でした。

そして、その経験の中で、一つ気づいたことがあります。それは、どの方にも「強い好奇心と探求心」があるということです。司書という仕事に必要な資質は、「アンテナを高くして色々なことに興味を持っておく」ことだと考えている私は、妙に納得してしまいました。利用者さんからいただくさまざまな疑問に的確に答えるには、知的好奇心を高く持つことが必須になります。色々な意味で変化がめまぐるしい最近の情勢の中で、新しいことについていくのは大変になってくるおばさん司書ではありますが、「おいしいもの」からいただくエネルギーを大切に、好奇心を忘れることなく、大好きな司書の仕事を続けられればと思っています。

連載を読んでくださった方々、執筆に協力してくださった方々にたくさんの感謝を込めて。

おすすめ本

(M)

- 『すてきな司書の図書館めぐり シャッピーツアーのたまてばこ』 高野一枝/編著 郵研社 (O10 タ)
- 『世界の大好きたちが教えてくれた人生を変えた本と本屋さん』 ジェーン・マウント/著 エクスナレッジ (O20 マ)
- 『おいしいってなんだろ?』 伊藤まさこ/著 幻冬舎 (596.0 イ)
- 『辰巳芳子のことば 美といのちのために』 辰巳芳子/著 小学館 (596.0 タ)
- 『文化としての食と旅』 周達生/著 清水書院 (383 シ)



南北に細長い谷あいの地形をうまく活かしています



復元された一乗谷の街並み。戦国時代にタイムスリップしたかのようです。

おすすめ本

- 『福井県の歴史散歩(歴史散歩 18)』 福井県の歴史散歩編集委員会/編 山川出版社 中央・駒込・上池袋。池袋・目白・千早で所蔵しています。
- 『奪うは我なり 朝倉義景』 吉川永青/著 KADOKAWA (ヨシ)
- 『朝倉義景(人物叢書 新装版)』 水藤真/著 吉川弘文館 (289.1 ア)

今回は「日本のポンペイ」と呼ばれる一乗谷城に行ってきました。

一乗谷城は、現在の福井市の、周りを山と川に囲まれた南北に細長い谷底平野にあった山城です。城と言っても天守閣はなく、本丸・二の丸・三の丸がありました。ここを治めたのが朝倉一族で1471年に幕府から守護を命ぜられ、越前国を平定しました。当主朝倉孝景は、一乗谷の谷あいの細い入口2か所を土塁と巨石で仕切り防御性を高め、その内側に武家屋敷や町屋を配した城下町を作りました。

以後孝景(初代)、氏景、貞景、孝景、義景と5代103年間にわたって一乗谷城は越前国の中心として繁栄しました。一乗谷は京都からも近く、朝倉氏が代々文化に造詣が深かった為、京都や奈良から多くの文化人が訪れました。また中国や朝鮮との交易も盛んで、北陸の小京都と呼ばれ興隆を誇りました。城内には4つの素晴らしい庭園も残されています。

しかし義景の代に、天下布武を目指す織田信長と対立し、幾度かの戦いの末、柴田勝家の軍勢に追い詰められ義景が自害し、朝倉一族は滅亡しました。織田信長は一乗谷から10kmほど離れた北庄城に北陸の拠点を移し、一乗谷の町屋の全ての人々を北庄城周辺に移住させ、その後一乗谷城は城下町も含め3日3晩かけて焼き払われてしまいました。

時は流れ江戸時代に入り、荒地地となっていた一乗谷にも人が住み始め、やがて農村になりました。その後、昭和初期に水田の下から出土品が出てくるのが分かり、昭和42年から国の大規模な発掘調査が始まりました。調査が始まると、一斉に焼き払われてそのままだった為、塀の石垣や建物の基礎、庭園跡、井戸やトイレ、外国製の陶磁器や金製の装飾品、鍋や包丁に至るまで状態の良いまま450年間灰の下で眠っていた事が分かりました。また、武家屋敷から町屋まで上下水道が完備され各家庭には井戸があり、高い技術のインフラ設備がある豊かな暮らしをしていた事も分かりました。これが「日本のポンペイ」と呼ばれる所以です。

今でも発掘調査は続けられていて、昭和46年には国から特別史跡、平成3年には特別名勝と二重指定を受けました。特別史跡と特別名勝の二重指定を受けているのは全国で10カ所しかありません(金閣寺や銀閣寺、厳島など。100名城ではここ一乗谷遺跡だけです。)

現在、遺構を参考に町並が復元されています。200mにわたり復元された町並を歩いていると、450年前の戦国時代にタイムスリップしたかのようです。1日3回、ボランティアによるガイドツアーがあり、詳しい説明を聞きながら見学が出来ます。皆さんも一乗谷朝倉氏遺跡を訪ねてみてはいかがでしょうか?

(K)